



ふるさと笠松の「ちょっといい話」123号



3月5日の「第9回道徳のまち笠松のつどい」の講師 二宮 金次郎（尊徳＝たかのり）氏の7代目子孫 京都で、中桐 万里子さんにインタビューをしました。

12月5日(月)に京都の中京区の六角堂の近くにある中桐万里子様の事務所を訪問しました。

中桐様は「事務所の場所が分かりづらい場所だから。」と、親切にも烏丸の駅まで出迎えてくださいました。

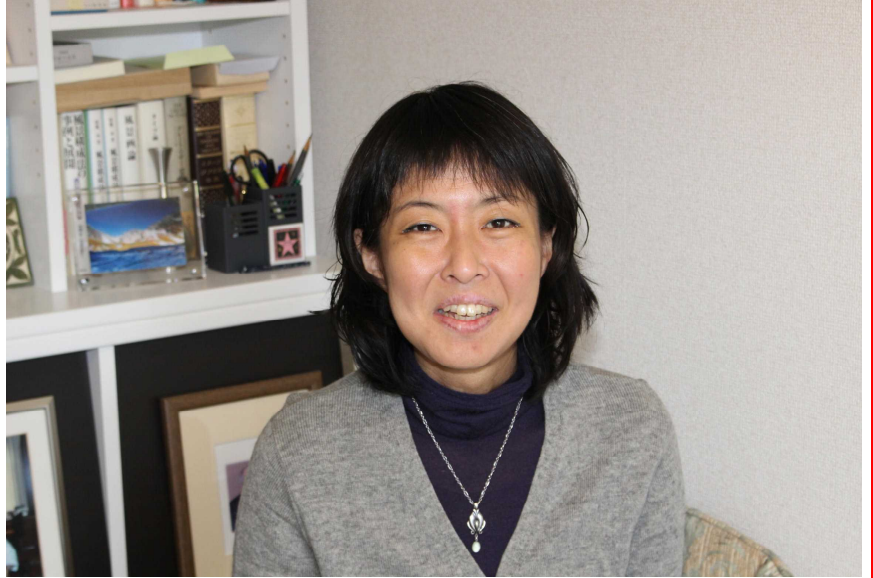
事務所は普段は親子をつなぐ学びのスペースとして活用しているとのこと、人形や動物など子どもたちが喜びそうなおもちゃがたくさん置いてありました。

中桐様が金次郎に興味をもったのはおばあ様の影響が大きいとのこと。おばあ様や家族から金次郎の話がたくさん聞くうちに、尊敬とあこがれを持ち、今の仕事の動機になっているということでした。

金次郎の「報徳思想」の一つに「助けられたり、助けたり」ではなく「助けたり、助けられたり」であり、さらには「助けたり、助けたり」が大切だという教えがあるそうです。

また、金次郎はたとえ殿様から助けてほしいという依頼があっても、3回は断ったそうです。断っても断っても依頼をしてくる場合だけ、本当に困っているのだと判断し、依頼を受けたということです。ですから、金次郎が出かけて助けた地域は、本当に困窮していた地域だということでした。岐阜の近郊に金次郎が訪れた記録が少ないのは、江戸時代の終わりごろには、岐阜の近郊にはそこまで困窮した地域がなかったのかもしれない。

平成29年3月5日(日)の2時から中桐様の講演を予定しています。二宮金次郎の話を中心に、楽しい講演になると思っています。皆様、是非、講演会にお出かけください。

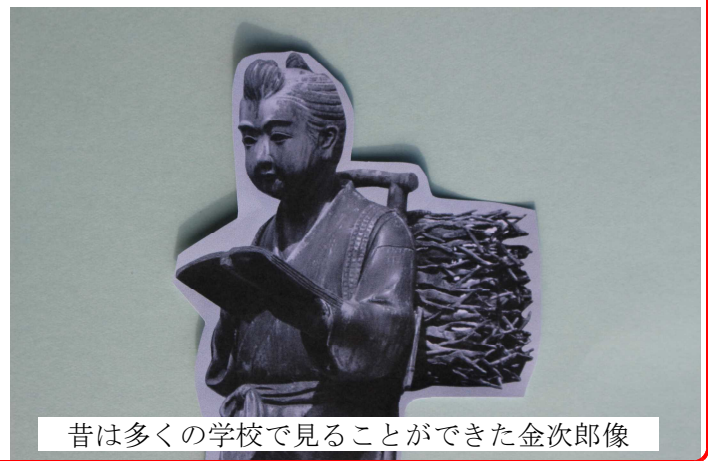


事務所で、にこやかに対応してくださった中桐 万里子 様

講師の紹介・・・中桐 万里子様は1974年 東京生まれで神奈川県育ちです。二宮金次郎の7代目です。金次郎の思想の一つを表した「経済のない道徳は寝言であり、道徳のない経済は犯罪である。」という有名な言葉は、日本の経済発展の精神的原動力であり、道徳のまち笠松のバックボーンでもあると言えます。嘘や偽りのない笠松町民や笠松の商工業こそ、今後も進むべき道だと言えるでしょう。二宮金次郎についての造詣が深い中桐様からどんな講演を聞くことができるか、今からとても楽しみです。



中桐講師さんと遠藤主事



昔は多くの学校で見ることができた金次郎像